

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年2月14日

【四半期会計期間】 第43期第3四半期(自平成25年10月1日至平成25年12月31日)

【会社名】 株式会社遠藤照明

【英訳名】 ENDO Lighting Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 遠藤良三

【本店の所在の場所】 大阪市中央区本町一丁目6番19号

【電話番号】 大阪06-6267-7095 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営品質本部長 佐川武志

【最寄りの連絡場所】 大阪市中央区本町一丁目6番19号

【電話番号】 大阪06-6267-7095 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営品質本部長 佐川武志

【縦覧に供する場所】 株式会社遠藤照明営業本部営業企画課  
(東京都新宿区若葉一丁目4番1号ENDO東京ビル)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第42期 第3四半期 連結累計期間	第43期 第3四半期 連結累計期間	第42期
会計期間		自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高	(百万円)	29,557	27,702	39,826
経常利益	(百万円)	5,766	3,337	8,124
四半期(当期)純利益	(百万円)	4,627	2,639	6,749
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	4,728	3,340	7,644
純資産額	(百万円)	18,418	23,943	21,333
総資産額	(百万円)	39,505	49,559	44,434
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	327.58	178.62	472.45
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	46.6	48.3	48.0

回次		第42期 第3四半期 連結会計期間	第43期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	152.99	85.24

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、来春の消費税増税を控えた駆け込み需要もあって、自動車、家電の出荷、販売が好調に推移し、着実に景況感の改善が進みました。民間設備投資も着実な増加傾向を示し、景気は穏やかな回復基調を維持しました。

このような経済状況の下で、当社グループは、高付加価値空間創造企業として、省エネ性能を重視した高効率LED照明器具の新製品開発、製造及び販売に経営資源を集中して取り組みました。高効率直管型LED照明器具のLEDZ TUBEシリーズ等の新製品の販売は大きく伸びたものの、既存製品の売上高が昨年度の水準を下回ったため、当第3四半期連結累計期間における売上高は、277億2百万円(前年同四半期比6.3%の減収)となりました。

売上高の減少による操業度の低下に加えて、円安の進行により輸入品の原価が上昇し、営業利益は、22億22百万円(前年同四半期比61.7%の減益)となりました。経常利益は、円安の進行により為替差益が発生したこと等から、33億37百万円(前年同四半期比42.1%の減益)となりました。

円安の進行により、将来の為替リスクに備えるための為替予約等の評価益が6億73百万円発生し、四半期純利益は26億39百万円(前年同四半期比43.0%の減益)となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

#### 照明器具関連事業

当セグメントにおきましては、業務用LED照明器具分野で業界トップクラスの品揃えを実現し、日本全国13都市にショールームを開設するとともに、展示会の開催等の積極的な販売活動を展開することにより、業務用LED照明器具分野における高いブランドイメージの確立に努めました。当社製品に対する大手設計事務所、ゼネコン、サブコン等の評価も高く、商業施設やオフィス等の大型施設向けの販売だけでなく、既存照明器具の取り換え需要に対しても積極的に販売活動を推進しました。しかしながら、昨年度の大幅な需要増加の反動もあって照明業界全体の市場拡大は減速し、当セグメントの売上高は減少しました。

海外子会社であるENDO Lighting(THAILAND)Public Co.,Ltd.及び昆山恩都照明有限公司(中国)は、LED照明器具の主力製造工場として生産能力を強化し、高品質でローコストな製品の安定供給を実現しておりますが、急激な円安進行により、円ベースの製造コストが上昇し、連結売上総利益率が低下しました。

この結果、売上高は270億79百万円(前年同四半期比4.6%の減収)(セグメント間取引含む。以下同じ。)、セグメント利益(営業利益。以下同じ。 )は25億98百万円(前年同四半期比57.8%の減益)となりました。

#### 環境関連事業

当セグメントにおきましては、当社グループの提供する、省エネ性能を重視した高効率LED照明器具や制御機器のレンタル契約実績、機器販売高は順調に推移し、対前年同四半期比で大幅な増収、増益を達成しました。

この結果、売上高は66億23百万円(前年同四半期比47.7%の増収)、セグメント利益は8億75百万円(前年同四半期比18.0%の増益)となりました。

#### インテリア家具事業

当セグメントにおきましては、業務用家具に特化したカタログを建築士やインテリアデザイナー等に配布し、積極的な販売促進活動を展開する一方、代理店網の強化や特注家具の販売にも積極的に取り組み、ブランド認知度の向上と販路開拓に注力しました。インテリア家具事業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。更なるコストダウン・物流合理化を推進することで採算性の向上を図っております。

この結果、売上高は5億54百万円(前年同四半期比1.1%の減収)となりました。採算重視の営業活動を展開しましたが、セグメント損失を74百万円(前年同四半期は86百万円のセグメント損失)計上する結果となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (資産)

当第3四半期連結会計期間における総資産は495億59百万円(前連結会計年度末比51億25百万円の増加)となりました。

主な要因は、たな卸資産の増加17億17百万円、有形固定資産の増加28億24百万円によるものであります。

### (負債)

当第3四半期連結会計期間における負債は256億15百万円(前連結会計年度末比25億15百万円の増加)となりました。

主な要因は、増加要因として借入金の増加48億29百万円、仕入債務の増加5億14百万円、減少要因として未払法人税等の減少22億91百万円、デリバティブ債務の減少6億46百万円によるものであります。

### (純資産)

当第3四半期連結会計期間における純資産は239億43百万円(前連結会計年度末比26億9百万円の増加)となりました。

主な要因は、増加要因として四半期純利益26億39百万円及び為替換算調整勘定の増加6億28百万円、減少要因として剰余金の配当7億38百万円によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループが支出した研究開発費の総額は5億87百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	35,800,000
計	35,800,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,776,321	14,776,321	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	14,776,321	14,776,321	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日	-	14,776	-	5,155	-	3,795

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年9月30日)の株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,773,300	147,733	単元株式数100株
単元未満株式	普通株式 3,021	-	-
発行済株式総数	14,776,321	-	-
総株主の議決権	-	147,733	-

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株(議決権10個)含まれております。  
2. 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式50株が含まれております。

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 新任役員

該当事項はありません。

(2) 退任役員

該当事項はありません。

(3) 役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
代表取締役 専務取締役 (LED中央研究所長)	代表取締役 専務取締役	遠藤 邦彦	平成25年11月1日

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽ASG有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,218	5,758
受取手形及び売掛金	<sup>2</sup> 7,372	<sup>2</sup> 7,028
商品及び製品	6,974	7,238
仕掛品	429	678
原材料及び貯蔵品	3,568	4,772
繰延税金資産	1,285	1,055
デリバティブ債権	172	256
その他	1,647	3,002
貸倒引当金	56	76
流動資産合計	27,612	29,715
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,952	7,566
減価償却累計額	2,336	2,343
建物及び構築物（純額）	4,616	5,222
機械装置及び運搬具	2,261	2,839
減価償却累計額	1,422	1,619
機械装置及び運搬具（純額）	838	1,219
土地	3,662	4,534
リース資産	1,038	1,038
減価償却累計額	185	309
リース資産（純額）	852	728
建設仮勘定	1,628	1,284
その他	4,090	5,930
減価償却累計額	2,307	2,715
その他（純額）	1,782	3,214
有形固定資産合計	13,380	16,204
無形固定資産		
ソフトウェア	619	681
のれん	863	934
その他	120	133
無形固定資産合計	1,603	1,750
投資その他の資産		
投資有価証券	292	350
繰延税金資産	486	493
デリバティブ債権	719	663
その他	461	502
貸倒引当金	120	120
投資その他の資産合計	1,838	1,889
固定資産合計	16,821	19,843
資産合計	44,434	49,559

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,835	3,350
短期借入金	6,135	4,929
1年内返済予定の長期借入金	1,577	2,734
リース債務	194	197
未払法人税等	2,435	143
賞与引当金	501	103
役員賞与引当金	40	-
製品保証引当金	691	608
デリバティブ債務	69	11
その他	1,605	2,289
流動負債合計	16,085	14,368
固定負債		
長期借入金	4,201	9,079
リース債務	885	737
繰延税金負債	128	119
退職給付引当金	475	451
役員退職慰労引当金	399	415
修繕引当金	25	29
デリバティブ債務	644	56
その他	255	359
固定負債合計	7,015	11,247
負債合計	23,100	25,615
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,155	5,155
資本剰余金	5,539	5,539
利益剰余金	9,822	11,722
自己株式	0	0
株主資本合計	20,517	22,417
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	39	72
繰延ヘッジ損益	104	152
為替換算調整勘定	658	1,287
その他の包括利益累計額合計	801	1,512
少数株主持分	15	13
純資産合計	21,333	23,943
負債純資産合計	44,434	49,559

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	29,557	27,702
売上原価	16,148	17,608
売上総利益	13,409	10,093
販売費及び一般管理費	7,599	7,870
営業利益	5,809	2,222
営業外収益		
受取利息及び配当金	8	21
受取賃貸料	21	21
仕入割引	5	3
為替差益	300	1,347
その他	78	78
営業外収益合計	413	1,471
営業外費用		
支払利息	109	118
売上割引	250	226
その他	97	11
営業外費用合計	457	357
経常利益	5,766	3,337
特別利益		
デリバティブ評価益	1,214	673
その他	0	0
特別利益合計	1,214	673
特別損失		
事務所移転費用	14	-
減損損失	19	63
その他	8	13
特別損失合計	42	76
税金等調整前四半期純利益	6,938	3,934
法人税、住民税及び事業税	2,329	1,127
法人税等調整額	15	174
法人税等合計	2,313	1,301
少数株主損益調整前四半期純利益	4,625	2,633
少数株主損失( )	2	5
四半期純利益	4,627	2,639

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,625	2,633
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12	33
繰延ヘッジ損益	175	48
為替換算調整勘定	83	625
その他の包括利益合計	103	707
四半期包括利益	4,728	3,340
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,731	3,349
少数株主に係る四半期包括利益	2	9

## 【注記事項】

## (追加情報)

## 保有目的の変更

当第3四半期連結会計期間において、当社子会社が保有するレンタル契約にかかるレンタル債権及びレンタル資産の流動化によるキャッシュ・フローの創出、有利子負債の削減、並びに信用リスクのヘッジを目的として、固定資産の保有目的の変更を行い、「固定資産」の「その他」に含まれるレンタル資産809百万円について、「流動資産」の「商品及び製品」に振替えております。

なお、当該資産は当第3四半期連結会計期間において1,103百万円で売却しており、棚卸資産に振替えた809百万円は売上原価に計上しております。

## (四半期連結貸借対照表関係)

## 1 偶発債務

## 保証債務

下記の会社に対し、当社仕入債務の一括支払信託に係る受益権譲渡に関連して発生した同社の金融機関借入金等に対する債務保証を行っております。なお、下記金額は、当該保証債務の極度額であります。

前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)	
ノエル・カンパニー・リミテッド	850百万円	ノエル・カンパニー・リミテッド	850百万円

## 2 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当第3四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当第3四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形	127百万円	68百万円

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	968百万円	1,264百万円
のれんの償却額	32	47

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	220	17.50	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金
平成24年11月12日 取締役会	普通株式	295	20.00	平成24年9月30日	平成24年12月4日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動に関する事項

当社は、平成24年6月5日を払込期日とする一般募集による新株式発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ1,126百万円増加し、同日を払込期日とする一般募集による自己株式の処分により、その他資本剰余金(自己株式処分差益)が1,736百万円増加し、自己株式が249百万円減少しております。

また、平成24年9月20日付で転換社債型新株予約権付社債1,000百万円の株式転換が完了し、資本金及び資本準備金がそれぞれ500百万円増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が5,155百万円、資本剰余金が5,539百万円、自己株式が0百万円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	369	25.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金
平成25年10月31日 取締役会	普通株式	369	25.00	平成25年9月30日	平成25年12月3日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計
	照明器具 関連事業	環境関連事業	インテリア 家具事業	計	
売上高					
外部顧客への売上高	24,639	4,356	560	29,557	29,557
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,760	128	-	3,888	3,888
計	28,400	4,485	560	33,445	33,445
セグメント利益又は損失( )	6,160	742	86	6,816	6,816

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	6,816
セグメント間取引消去	180
全社費用(注)	826
四半期連結損益計算書の営業利益	5,809

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	照明器具 関連事業	環境関連事業	インテリア 家具事業	計	
売上高					
外部顧客への売上高	20,714	6,433	554	27,702	27,702
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,365	189	-	6,555	6,555
計	27,079	6,623	554	34,257	34,257
セグメント利益又は損失( )	2,598	875	74	3,399	3,399

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,399
セグメント間取引消去	323
全社費用(注)	854
四半期連結損益計算書の営業利益	2,222

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。



(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	327円58銭	178円62銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	4,627	2,639
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	4,627	2,639
普通株式の期中平均株式数(千株)	14,127	14,776

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

第43期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)中間配当については、平成25年10月31日開催の取締役会において、平成25年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	369百万円
1株当たりの金額	25円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成25年12月3日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月10日

株式会社遠藤照明  
取締役会 御中

太陽A S G有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山田 茂善 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 岡本 伸吾 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社遠藤照明の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社遠藤照明及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。